

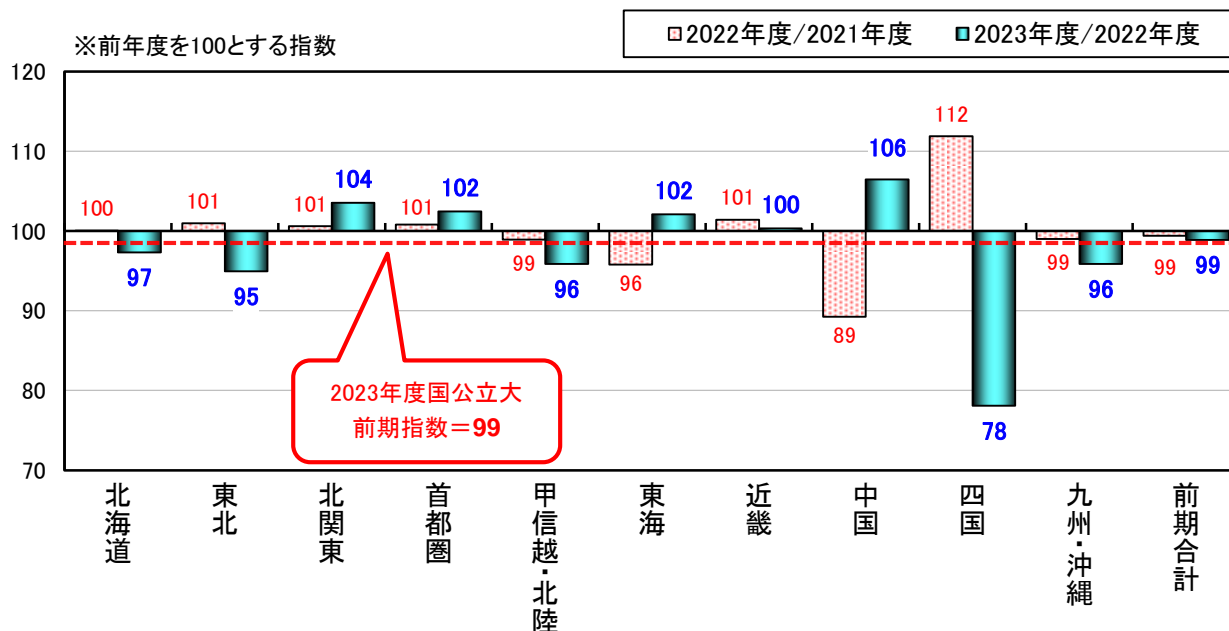
※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎地区別志願状況

□前期は中国、北関東でやや増加、四国は大幅減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期は、前年度はコロナ禍による強い地元志向による流入減の影響を受けていた北関東(104)がやや増加、首都圏(102)、東海(102)が微増でした。一方で、東北(95)、九州・沖縄(96)、甲信越・北陸(96)、北海道(97)がやや減少と「地方から関東へ」という流れの復活が見られました。中国(106)、四国(78)はそれぞれ、前年度の反動による増減ですが、瀬戸内海を挟んで対面する両地区は、前年度は共通テストの平均点ダウンの結果、より目標ラインの低い大学が多い四国に流れたのが、今年度はより目標ラインの高い大学が多い中国へと戻った様子が見られます。

これらの動きの中で近畿(100)は2年連続前年度並です。もともと京阪神地区という大都市部が含まれており、国公立大志向の高い地区であることから地区外からの流入の影響が小さいことがうかがえます。

○北海道(97)…13 大学中 7 大学が減少。

【志願者数】北海道教育大(+150 人)は増加数が大きかった。一方で、北見工業大(-235 人)は前年度増加数が大きかった反動で減少数が大きかった。

【志願者指数】旭川医科大(150)は大幅増加。一方で、北見工業大(53)、公立はこだて未来大(63)、釧路公立大(80)は大幅減少。

○東北(95)…17 大学中 12 大学が減少。

【志願者数】福島県立医科大(+374 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加数が大きかった。一方で、弘前大(-406 人)は前年度全国で2番目に大きな増加数だった反動で減少。次いで、秋田県立大(-330 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】山形県立保健医療大(156)、福島県立医科大(155)、宮城教育大(138)、青森公立大(130)は大幅増加。一方で、秋田県立大(62)、会津大(74)、弘前大(83)、岩手県立大(85)は大幅減少。

○北関東(104)…10 大学中 7 大学が増加。

2023 年度入試状況分析【国公立大】

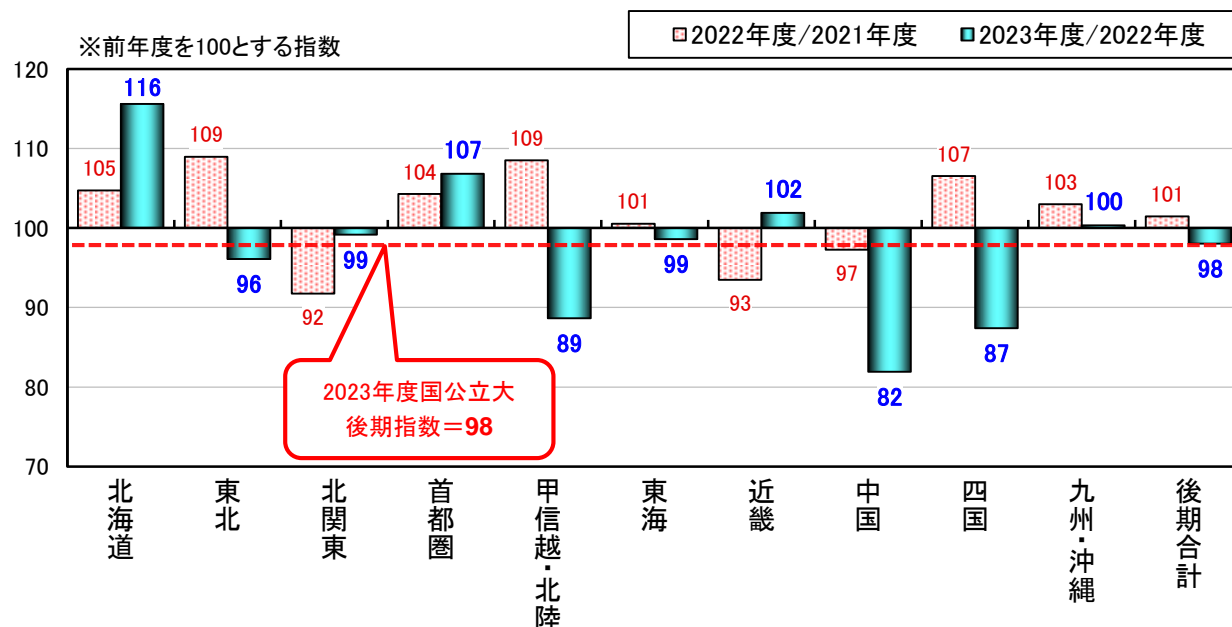
- 【志願者数】高崎経済大(+349 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加。次いで、前橋工科大(+254 人)の増加数が大きかった。一方で、茨城大(-322 人)の減少数が大きかった。
- 【志願者指数】前橋工科大(158)、高崎経済大(127)、群馬県立県民健康科学大(125)は大幅増加。一方で、茨城大(85)は大幅減少。
- 首都圏(102)…既存の 19 大学中 10 大学が増加。新設の川崎市立看護大を除いても(101)。
- 【志願者数】横浜国立大(+1027 人)は 2021 年度にコロナ禍対策で個別試験実施取りやめで大幅減少、前年度から個別試験復活で 2 年連続増加、さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、全国最大の増加数。一方で、東京外国語大(-391 人)は系統への人気の低さに加えて、共通テストで数学を 1 科目受験から 2 科目受験に変更した負担増で大幅減少。
- 【志願者指数】横浜国立大(136)、東京農工大(132)、埼玉県立大(115)は大幅増加。一方で、東京外国語大(74)、電気通信大(84)は大幅減少。
- 甲信越・北陸(96)…23 大学中 14 大学が減少。
- 【志願者数】富山大(+364 人)は前年度減少数が大きかった反動で増加数が大きかった。一方で、福井大(-516 人)は前期では全国で 3 番目に減少数が大きかった。次いで、新潟大(-304 人)の減少数が大きかった。
- 【志願者指数】前年度新設の三条市立大(206)は独自日程募集停止で志願者が移行したことで倍増以上、長野大(136)、公立諏訪東京理科大(123)は大幅増加。一方で、新潟県立看護大(29)は 7 割以上の激減、敦賀市立看護大(39)、福井大(62)、福井県立大(70)、長野県看護大(73)、長野県立大(74)は指数 80 を下回る大幅減少。
- 東海(102)…14 大学中 8 大学が減少。
- 【志願者数】名古屋工業大(+327 人)、名古屋市立大(+279 人)、浜松医科大(+236 人)は増加数が大きかった。一方で、岐阜大(-259 人)は減少数が大きかった。
- 【志願者指数】豊橋技術科学大(171)、浜松医科大(169)、名古屋工業大(123)、名古屋市立大(121)は大幅増加。一方で、三重県立看護大(71)は大幅減少。
- 近畿(100)…24 大学中 13 大学が減少。
- 【志願者数】前年度旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(+759 人)の増加が目立った。次いで、京都大(+207 人)の増加数が大きかった。一方で、滋賀医科大(-271 人)の減少数が大きかった。
- 【志願者指数】神戸市看護大(141)、奈良県立医科大(139)、兵庫教育大(119)、大阪公立大(116)、京都市立芸術大(115)は大幅増加。一方で、滋賀医科大(51)はほぼ半減、福知山公立大(64)、奈良県立大(69)、和歌山県立医科大(81)、奈良教育大(84)、滋賀大(85)は大幅減少。
- 中国(106)…既存の 16 大学中 8 大学が増加。新設の周南公立大を除くと(102)。
- 【志願者数】山口大(+908 人)の増加数が目立ち、前期では全国で 2 番目に大きかった。一方で、島根県立大(-327 人)の減少数が大きかった。
- 【志願者指数】新見公立大(172)、山陽小野田市立山口東京理科大(148)、山口大(135)は大幅増加。一方で、島根県立大(64)、山口県立大(66)、広島市立大(72)、鳥取大(75)は大幅減少。
- 四国(78)…9 大学中 8 大学が減少。
- 【志願者数】増加数が目立った大学はなく、香川大(-761 人)、徳島大(-568 人)、高知大(-358 人)、愛媛大(-343 人)、高知工科大(-307 人)の減少が目立った。
- 【志願者指数】鳴門教育大(54)、香川県立保健医療大(66)、香川大(67)、高知工科大(72)、徳島大(78)は指数 80 を下回る大幅減少。

○九州・沖縄(96)…23 大学中 16 大学が減少

【志願者数】鹿児島大(+272 人)の増加数が大きかった。一方で、長崎大(-308 人)、北九州市立大(-269 人)、大分大(-231 人)、佐賀大(-225 人)、熊本県立大(-211 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】学科新設した名桜大(120)が大幅増加。一方で、沖縄県立芸術大(58)、宮崎公立大(64)、熊本県立大(71)、鹿屋体育大(78)は大幅減少。

<後期日程>



後期も、前期同様に首都圏(107)の増加。一方で、甲信越・北陸(89)の減少、東北(96)のやや減少と「地方から関東へ」という流れの復活が見られました。特に、首都圏では一橋大・ソーシャル・データサイエンス新設の影響もあり、前期で理系学部を志願した受験生からの併願も多くありました。

北海道(116)は大幅増加ですが、北海道大<後>の志願者数が 2012 年度以来 11 年ぶりに 4,500 人を上回った影響が大きく、コロナ禍による遠距離移動敬遠の動きが緩和され、後期募集人員が多い北海道大へ併願先を求める動きがありました。

四国(87)は前年度の反動による減少です。中国(82)は岡山大が後期募集を停止した影響がありましたが、岡山大を除いても(89)と減少しました。共通テスト平均点アップの影響で、前年度あった近畿(102)からの流入が減少したことが考えられます。

東海(99)は 2 年連続前年度並でした。

○北海道(116)… 9 大学中 6 大学が増加。

【志願者数】室蘭工業大(+638 人)、北海道教育大(+468 人)、北海道大(+417 人)、旭川医科大(+361 人)の増加数が大きかった。一方で、北見工業大(-510 人)の減少が目立った。

【志願者指数】旭川医科大(215)は倍増以上、室蘭工業大(180)、北海道教育大(131)、帯広畜産大(126)、名寄市立大(117)は大幅増加。一方で、北見工業大(60)、公立はこだて未来大(77)は大幅減少。

○東北(96)…14 大学中 7 大学ずつの増減。

【志願者数】福島大(+347 人)の増加数が大きかった。一方で、岩手県立大(-630 人)はソフトウェア情報が中期日程になったため大きく減少。次いで、東北大(-325 人)、岩手大(-320 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宮城教育大(164)、青森公立大(153)、福島大(124)、秋田県立大(119)、秋田大(119)

が大幅増加。一方で、岩手県立大(47)はソフトウェア情報が中期日程になったため半減以下、岩手大(72)、山形県立米沢栄養大(75)、東北大(76)は大幅減少。

○北関東(99)…7 大学中 4 大学が増加。

【志願者数】高崎経済大(+600 人)、群馬大(+332 人)の増加が目立った。一方で、茨城大(-942 人)は後期では全国で 2 番目に大きい減少数だった。

【志願者指数】高崎経済大(178)、群馬大(129)は大幅増加。一方で、茨城大(79)は大幅減少。

○首都圏(107)…既存の 15 大学中 8 大学が増加。新規の川崎市立看護大を除いても(106)。

【志願者数】横浜国立大(+1,144 人)は後期でも全国で志願者増加数が最大。次いで、新規にソーシャル・データサイエンスを設置した一橋大(+495 人)の増加数が目立った。一方で、東京外国語大(-406 人)は系統への低い人気で減少数が大きかった。次いで、電気通信大(-296 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新規に理での募集を行った横浜市立大(228)は 2.2 倍増以上。東京医科歯科大(154)、一橋大(140)、横浜国立大(126)は大幅増加。一方で、東京外国語大(69)は系統への低い人気から大幅減少。

○甲信越・北陸(89)…13 大学中 9 大学が減少。

【志願者数】信州大(+538 人)の増加数が大きかった。一方で、福井大(-807 人)、山梨大(-558 人)、新潟大(-411 人)、富山大(-319 人)といった大学の減少数が大きかった。

【志願者指数】石川県立看護大(164)、信州大(120)、石川県立大(118)が大幅増加。一方で、敦賀市立看護大(52)、新潟県立看護大(54)はほぼ半減、福井大(60)、山梨大(78)、山梨県立大(79)は指数 80 を下回る大幅減少。

○東海(99)…13 大学中 7 大学が減少。

【志願者数】静岡大(+565 人)、三重大(+416 人)、名古屋工業大(+401 人)の増加数が大きかった。一方で、岐阜大(-1,202 人)は後期では全国で最大の減少数。次いで、静岡文化芸術大(-314 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】浜松医科大(233)は 2.3 倍増以上、医(医)の募集枠を地域枠から一般枠に変更した名古屋大(200)は倍増、名古屋工業大(119)、三重大(118)、静岡大(116)は大幅増加。一方で、静岡文化芸術大(60)、岐阜大(61)、愛知県立大(82)は大幅減少。

○近畿(102)…20 大学中 12 大学が増加。

【志願者数】大阪公立大(+598 人)、滋賀大(+452 人)の増加数が大きかった。一方で、京都工芸繊維大(-685 人)、奈良県立医科大(-314 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】奈良教育大(127)、大阪公立大(126)、滋賀大(125)、神戸市外国語大(124)、和歌山県立医科大(116)は大幅増加。一方で、福知山公立大(57)、京都工芸繊維大(57)、京都府立大(75)、奈良県立医科大(76)は大幅減少。

○中国(82)…13 大学中 9 大学が減少。後期募集停止の岡山大を除くと(89)。

【志願者数】山口大(+528 人)の増加数が大きかった。一方で、鳥取大(-651 人)、広島市立大(-442 人)、広島大(-413 人)、島根大(-398 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新見公立大(182)、山口大(119)は大幅増加。一方で、広島市立大(59)、鳥取大(71)、岡山県立大(71)、島根大(78)、福山市立大(79)、公立鳥取環境大(80)、広島大(85)は大幅減少。

○四国(87)…9 大学中 5 大学が減少。

【志願者数】愛媛大(+320 人)の増加数が大きかった。一方で、徳島大(-916 人)は後期では全国で 3 番目の

減少数だった。次いで、高知大(-360 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】高知県立大(127)、愛媛大(117)は大幅増加。一方で、香川県立保健医療大(38)は激減、鳴門教育大(59)、高知大(65)、徳島大(70)は大幅減少。

○九州・沖縄(100)・・・21 大学の中 11 大学が増加。

【志願者数】宮崎大(+1,102 人)は後期では全国で 2 番目に増加数が大きかった。一方で、九州大(-331 人)、熊本県立大(-303 人)は減少数が大きかった。

【志願者指数】宮崎県立看護大(147)、宮崎大(142)、名桜大(126)、沖縄県立看護大(125)、福岡県立大(120)、沖縄県立芸術大(119)、福岡教育大(117)、熊本大(115)は大幅増加。一方で、大分県立看護科学大(53)はほぼ半減、熊本県立大(75)、宮崎公立大(76)は大幅減少。

<中期日程>

今年度から公立大中期としての募集となった周南公立大、前期・後期を前期・中期に変更した岩手県立大・ソフトウェア情報の 2 大学を除いた 24 大学中 14 大学が減少。

【志願者数】静岡県立大(+358 人)、兵庫県立大(+282 人)、三条市立大(+209 人)の増加数が大きかった。一方で、公立諏訪東京理科大(-785 人)、大阪公立大(-393 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(-318 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】三条市立大(175)は激増、静岡県立大(148)、長野県立大(127)は大幅増加。一方で、公立諏訪東京理科大(51)はほぼ半減、長野県看護大(65)、新見公立大(71)、公立小松大(73)、岐阜薬科大(76)は指数 80 を下回る大幅減少。

<独自日程>

国際教養大、新潟県立大、叡啓大の 3 大学

【志願者数】国際教養大が志願者数 837 人で志願倍率は 8.4 倍、新潟県立大は志願者数が 2,311 人で志願倍率は 8.6 倍、叡啓大が 21 人の志願者数で志願倍率は 2.1 倍だった。国際教養大(-178 人)、新潟県立大(-321 人)、叡啓大(5 人)減少。

【志願者指数】叡啓大(81)、国際教養大(82)は大幅減少、新潟県立大(88)は減少。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	減少	北見工業大	-235 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2 学科とも大幅減少。
		公立はこだて未来大	-188 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
後期	増加	室蘭工業大	+638 人	4 年連続増加。理工(創造工)(227)は 2.2 倍増以上、理工(システム理化学)(149)は大幅増加。
		北海道教育大	+468 人	系統への人気は低いが、3 年連続減少の反動で大幅増加。
		旭川医科大	+361 人	医(医)(241)は 2 年連続倍増以上。医(看護)(153)は 3 年連続減少の反動で大幅増加。
	減少	北見工業大	-510 人	前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2 学科とも大幅減少。

○東北

前期	増加	福島県立医科大	+374 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。医(154)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。
	減少	弘前大	-406 人	前年度大幅増加の反動で減少。医(保健)(50)は半減。教育(68)、理工(72)は大幅減少。人文社会科学(90)、医(心理支援科学)(92)は減少。
		秋田県立大	-330 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。システム科学技術(44)は半減以下。生物資源科学(90)も減少。
		会津大	-237 人	大幅減少で3年連続減少。方式別では、共通テストが5教科8科目型の一般選抜 B(44)は半減以下、共通テストが理科のみの一般選抜 A(79)も大幅減少。
後期	増加	福島大	+347 人	2年連続減少の反動で大幅増加。理工(211)は前年度大幅減少の反動で倍以上。農(106)はやや増加。
		秋田大	+270 人	3年ぶりに後期復活の医(保健)に加え、理工(140)、医(医)(129)が大幅増加。医(保健)を除いても2年連続増加。
		秋田県立大	+170 人	2年連続増加。システム科学技術(119)は前年度減少の反動で大幅増加、生物資源科学(119)は2年連続大幅増加。
		宮城教育大	+164 人	前年度は課程改組により教育(学校教育教員養成/初等教育)のみの募集となったが、この課程のみでも大幅減少した反動で大幅増加。
	減少	岩手県立大	-630 人	ソフトウェア情報の後期を募集停止し、中期に変更。この募集停止されたソフトウェア情報を除いても(63)の減少。総合政策(50)は半減、看護(60)は大幅減少。
		東北大	-325 人	2学部のみ募集だが、理(73)は前年度増加の反動で大幅減少、経済(79)は大幅減少で2年連続減少。一橋大・ソーシャル・データサイエンス新設で前期難関大からの後期併願先の選択肢増加も影響。
		岩手大	-320 人	農(65)は(共同獣医)の後期募集停止で大幅減少、(共同獣医)を除いても前年度増加の反動で(83)の大幅減少。理工(54)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。

○北関東

前期	増加	高崎経済大	+349 人	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。地域政策(145)は5年ぶりに増加。経済(110)は2年連続増加。
		前橋工科大	+254 人	学科改組2年目で大幅増加。工(情報・生命工)(194)はほぼ倍増、工(建築・都市・環境工)(126)も大幅増加。
後期	増加	高崎経済大	+600 人	前年度大幅減少の反動で激増。
		群馬大	+332 人	共通テストの平均点アップで後期出願を諦めない層の増加で大幅増加。理工(150)、情報(142)、医(保健)(141)はいずれも大幅増加。
	減少	茨城大	-942 人	2年連続増加の反動で大幅減少。農(59)は前年度3倍以上の反動で大幅減少、教育(76)は2年連続減少。工(81)、理(82)は大幅減少。人文社会科学(89)は減少。

○首都圏

前期	増加	横浜国立大	+1,027 人	2021年度はコロナ禍対策で個別試験実施取りやめで大幅減少、前年度から個別試験復活で2年連続増加。さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、前期では全国最多の増加。
		東京農工大	+393 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。農(136)は系統への高い人気と前年度減少の反動で大幅増加、工(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
	減少	東京外国語大	-391 人	系統への人気の低さに加えて、共通テストで数学を1科目受験から2科目受験に変更した負担増で大幅減少。
		電気通信大	-223 人	共通テスト平均点アップによる目標ラインの高い大学への強気な出願の影響に加えて、類別募集となり募集単位の募集人員が少なくなったことによる慎重な出願も影響して、大幅減少で4年連続減少。
後期	増加	横浜国立大	+1,144 人	前期同様に、2021年度はコロナ禍対策で個別試験実施取りやめで大幅減少、前年度から個別試験復活で2年連続増加。さらに鉄道新線開通による交通利便の向上も影響し、後期でも全国最多の増加。経済(174)、経営(119)、理工(115)は2年連続大幅増加。
		一橋大	+495 人	ソーシャル・データサイエンスの新設で、2年連続大幅増加。ただし、既存の経済(88)のみでは減少。
	減少	東京外国語大	-406 人	前年度大幅増加の反動と系統への人気の低さから大幅減少。

○甲信越・北陸

前期	減少	福井大	-516 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。医(看護)(47)、国際地域(52)、医(医)(56)、教育(59)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。工(71)は3年連続減少で、志願者数は500人を下回った。
		福井県立大	-253 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願の影響で大幅減少。生物資源(40)は激減、海洋生物資源(73)、看護福祉(74)、経済(82)は大幅減少。
		新潟県立看護大	-165 人	前年度3.5倍以上の反動で激減。
後期	増加	信州大	+538 人	3年連続減少の反動で大幅増加、志願者数は4年ぶりに3,200人を上回った。医(保健)(159)、教育(141)、農(133)、理(125)、繊維(120)は大幅増加。
	減少	福井大	-807 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育(41)、医(看護)(53)は前年度激増の反動で大幅減少。工(57)、医(医)(76)、国際地域(85)は大幅減少。
		山梨大	-558 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育(58)、生命環境(69)、工(71)、医(医)(82)は大幅減少。
		新潟大	-411 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。農(53)はほぼ半減、歯(70)、工(71)、人文(81)、経済科学(82)は大幅減少。
		福井県立大	-232 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。生物資源(80)、経済(83)、看護福祉(84)は大幅減少。
中期	増加	三条市立大	+209 人	新設3年目。前年度独自日程から中期日程に変更となり大幅減少した反動で激増。共通テスト重視型のA区分(200)の倍増、個別試験重視型のB区分(161)は大幅増加。
	減少	公立諏訪東京理科大	-785 人	前年度大幅増加の反動でほぼ半減。
		公立小松大	-255 人	2年連続大幅減少。生産システム科学(54)はほぼ半減、個人面接から集団面接に変更した保健医療(看護)(70)は大幅減少。

○東海

前期	増加	名古屋工業大	+327 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。
		名古屋市立大	+279 人	データサイエンスの新設もあり大幅増加。データサイエンスを除いても(111)の増加で3年連続増加。医(121)、経済(119)は大幅増加。
		浜松医科大	+236 人	医(医)(187)は2年連続大幅減少の反動で激増。医(看護)(108)も増加。
後期	増加	静岡大	+565 人	共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって、大幅増加。新設のグローバル共創科学と募集停止の地域創造を除く既存学部の比較でも(113)の増加。理(128)、情報(123)、農(123)、工(122)は大幅増加。
		三重大	+416 人	生物資源(180)は前年度大幅減少の反動で激増、工(135)は2年連続大幅増加。それぞれ、系統への人気も高く、目標ラインの高い大学の前期からの併願先として狙われた。
		名古屋工業大	+401 人	共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって大幅増加。工(創造工学教育/情報・社会)(260)、(高度工学教育/物理工)(190)はいずれも激増、(高度工学教育/情報工)(126)は大幅増加。
		浜松医科大	+179 人	医(医)のみの募集。前年度激減の反動で2.3倍以上。志願倍率も9.0倍→20.9倍にアップ。
	減少	岐阜大	-1,202 人	医(医)の後期募集停止もあり大幅減少。医(医)を除くと、前年度大幅増加の反動で(70)の大幅減少。工(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、地域科学(55)は大幅減少で2年連続減少。
		静岡文化芸術大	-314 人	前年度激増の反動で大幅減少。文化政策(53)はほぼ半減、デザイン(77)は大幅減少。
	中期	増加	静岡県立大	+358 人
減少		岐阜薬科大	-265 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○近畿

前期	増加	大阪公立大	+759 人	大学統合 2 年目で周知されたことと、前年度の旧 2 大学合計との比較で大幅減少だった反動で大幅増加。医(医)(163)、経済(160)、看護(156)、商(152)、法(146)、医(リハビリテーション)(122)、理(121)、文(120)は大幅増加。
	減少	滋賀医科大	-271 人	前年度激増の反動でほぼ半減。医(看護)(43)、医(医)(54)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。
		滋賀大	-198 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科改組をした経済(63)は大幅減少。
後期	増加	福知山公立大	-180 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願の影響に加えて、前年度激増の反動で大幅減少。地域経営(57)、情報(73)は大幅減少。
		大阪公立大	+598 人	大学統合 2 年目で周知されたことと、前年度の旧 2 大学合計との比較で大幅減少だった反動で大幅増加。商(320)は 3.2 倍増、看護(211)は 2.1 倍増以上、農(188)、法(125)、医(リハビリテーション)(122)、文(117)、経済(116)は大幅増加。
		滋賀大	+452 人	3 年連続増加の反動で大幅減少。教育(216)は 2.1 倍増以上、データサイエンス(148)は大幅増加。
		奈良教育大	+170 人	前年度減少の反動で大幅増加。
	減少	神戸市外国語大	+154 人	前年度減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
		京都工芸繊維大	-685 人	工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築)の後期募集停止もあり大幅減少。工芸科学(デザイン科学/デザイン・建築)を除いても、3 年連続増加の反動で(71)の大幅減少。工芸科学(応用生物/応用生物学)(37)は激減、工芸科学(物質・材料科学/応用化学)(52)はほぼ半減。
		奈良県立医科大	-314 人	医(医)のみの募集。前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 24.7 倍→18.8 倍にダウン。
		京都府立大	-204 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。文(71)、生命環境(74)、公共政策(85)は大幅減少。
		福知山公立大	-199 人	前年度 2.6 倍増の反動で大幅減少。地域経営(地域経営)(41)は前年度激増の反動で大幅減少、地域経営(医療福祉経営)(78)は大幅減少、情報(89)は 2020 年度新設以降初めて減少。

○中国

前期	増加	山口大	+908 人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。教育(189)、医(医)(178)、工(175)は激増、経済(142)、人文(141)、医(保健)(134)、農(128)は大幅増加。
		山陽小野田市立 山口東京理科大	+245 人	工(数理情報科学)の新設もあり(148)の大幅増加。(数理情報科学)を除くと(108)の増加。(電気工)(140)は 2 年連続大幅増加。
		新見公立大	+201 人	前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。学科別では全て大幅増加で、特に、健康科学(地域福祉)(217)は倍増以上。
	減少	島根県立大	-327 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。人間文化(30)、国際関係(40)は激減、看護栄養(67)は大幅減少。
		広島市立大	-218 人	大幅減少で、2 年連続減少。国際(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、情報科学(67)は 2 年連続大幅減少。
後期	増加	山口大	+528 人	2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。工(200)は前年度大幅減少の反動で倍増、人文(182)、経済(147)、農(140)は大幅増加。
	減少	鳥取大	-651 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。地域(37)は前年度激増の反動で激減、農(67)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。
		広島市立大	-442 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願の影響で大幅減少。国際(42)は前年度大幅増加の反動で半減以下、情報科学(62)は 2 年連続大幅減少。
		島根大	-398 人	材料エネルギーの新設があったが大幅減少で、募集人員が 160 人台となった 2021 年度以降 3 年連続減少。医(看護)(37)、生物資源科学(55)、教育(66)、人間科学(71)、総合理工(78)は大幅減少。
		福山市立大	-189 人	大幅減少で 3 年連続減少。都市経営(59)は大幅減少で 2 年連続減少。
中期	減少	山陽小野田市立 山口東京理科大	-318 人	前年度の志願倍率が 20 倍を超える高倍率だった反動で、工(数理情報科学)の新設にもかかわらず大幅減少。工は(数理情報科学)を除くと(51)のほぼ半減。

○四国

前期	減少	香川大	-761 人	前年度が大幅増加で 2 年連続増加だった反動で大幅減少。医(医)(55)、創 造工(58)、農(61)、経済(63)は大幅減少。
		徳島大	-568 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。総合科学(26)は前年度激増の反動で激 減、医(保健)(73)、生物資源産業(74)、理工(74)は大幅減少。
		高知大	-358 人	前年度増加の反動で大幅減少。理工(53)、地域協働(59)、農林海洋科学(79)、 教育(80)は大幅減少。
		高知工科大	-307 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。環境理工から名称変更した理工(62)は 前年度激増の反動で大幅減少。経済・マネジメント(43)、情報(71)は大幅 減少。
後期	増加	愛媛大	+320 人	4 年連続減少の反動で大幅増加。理(150)、教育(143)、農(137)、工(116) は大幅増加。
	減少	徳島大	-916 人	3 年連続増加の反動で大幅減少。生物資源産業(56)、総合科学(56)はいず れも前年度激増の反動で大幅減少、理工(56)、医(保健)(75)はいずれも大 幅減少。
		高知大	-360 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願 の影響で大幅減少で 2 年連続減少。人文社会科学(50)、理工(66)、学科改 組した農林海洋科学(73)は大幅減少。

○九州

前期	減少	熊本県立大	-211 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願 の影響と前年度増加の反動で大幅減少。環境共生(62)、文(68)はいずれも 前年度大幅増加の反動で大幅減少、総合管理(78)は大幅減少で 3 年連続減 少。
後期	増加	宮崎大	+1,102 人	前年度の反動による増減が継続。医(医)(308)は前年度大幅減少の反動で 3 倍以上、地域資源創成(170)、教育(132)はいずれも前年度大幅減少の 反動で大幅増加、農(134)は大幅増加。
	減少	熊本県立大	-303 人	共通テストの平均点アップ影響で、目標ラインの高い大学への強気な出願 の影響もあって、大幅減少で 5 年連続減少。文(67)は大幅減少、総合管理 (70)は 2 年連続大幅減少。